

2010年1月15日発売(毎月2回1日・15日発行)第14巻2号(通巻260号)
1997年3月10日第3種郵便物認可

pen

with New Attitude

2/1

2010 No.260
特別定価 630 yen

特別
復刻版
ステッカー
付き



やつぱり好きだ!
草間彌生。

●ソムリエ・トータル飲料コーディネーター。米と酒の聖地、福井県に生を受ける。「All About」の日本酒・焼酎ガイド (<http://allabout.co.jp/gourmet/sake/>) も担当している。世界初のバイリンガル日本酒本「世界に誇る 品格の名酒」(GAP JAPAN) を国内外で出版。「国酒」たる日本酒普及に奔走する日々が続く。

今宵も一杯

78 杯目 文・友田晶子

お江戸を席卷した蔵元が放つ、飲み応えある辛口の酒。

江戸っ子といやあ神田の生まれと決まっているが、日本酒にも真正正銘、神田生まれの江戸っ子の酒ってえのがあるんだよ。

ときは慶長元年、江戸城大改修のころ。水運の要所でもある城の北側にあたる鎌倉河岸（現在の内神田二丁目）で、城の普請に集まった武士、職人、商人たちを相手に、造り酒屋兼飲み屋をはじめたのが「豊島屋」だ。

このウリは、自家製の白酒と上方からの下り酒とつまみの田楽。酒が入っていた空き樽の販売で儲けられるため、酒代は原価。初代豊島屋十右衛門さん、なかなかのアイデアマンだったのだ。で、安さと美味さの口コミは瞬く間に広がり、遠方からも酒を買いに来る客が引きもきらず、酒ができる季節には大行列となった。

その様子は「江戸名所図会」や廣重の『絵本江戸土産』にも描かれているし、「こ存じ、野村胡堂の時代小説『銭形半次捕物控』」のなかにも「おい、豊

十右衛門
Jyuemon
原産地 東京

東村山で生まれる日本酒・十右衛門には2種類あり、写真は原酒を搾ったままの中取り生原酒。もう1種類は、それをさらに火入れした常温保存可能なタイプ。価格はそれぞれ720ml瓶が¥1,470、1.8ℓ瓶が¥2,940



島屋行って、酒買ってこいよ」なんて台詞が登場するところからもうかがい知れる。この豊島屋、現在の酒蔵は東京都東村山市にあり、富士の雪解け水を利用して生真面目に酒造りを続けている。400年以上の歴史を持つ「白酒」は宮家へ献上、メインアイテムである清酒「金婚正宗」は、明治神宮、神田明神、日枝神社の御神酒ともなっているというから、いやはやなんとも由緒正しい銘柄なのだ。

「江戸っ子だつてね」「神田の生まれよ」「そさだつてねえ、飲みねえ、飲みねえ、寿司喰いねえ。なに、松の内は終わっただど？ おしさま（お日様のことね）もまだ高いたど？ なに言つてやがんでい、べらぼうめ。今年の暮開けの月なんだよ、景気よくばーっと飲みねえよ」

「十右衛門」が飲める店

いちぢ
イチモンメ

●東京都港区芝大門1-11-2 石綿ビル1F
☎03-3459-6883
営業11時30分～14時、17時30分～22時
休土、日、祝 都営地下鉄大門駅、御成門駅から徒歩3分
www.ichimonme.com



map design by Morison